

第1回 足立区パラスポーツ推進協議会 会議録（案）

会 議 名	第1回足立区パラスポーツ推進協議会		
事 務 局	生涯学習支援室 スポーツ振興課		
開催年月日	令和6年3月14日（木）		
開催時間	午後3時00分 ～ 午後4時50分		
開催場所	足立区役所 庁舎ホール		
区長の出席	○有・無		
出席者	会長 盆子原 秀三 委員	副会長 藤後 悦子 委員	副会長 安岡 由恵 委員
	飯ヶ谷 美恵 委員	鵜沢 勝 委員	加藤 仁志 委員
	蔵津 あけみ 委員	桑原 芳枝 委員	小金井 寛 委員
	佐藤 奈緒 委員	鈴木 常義 委員	照井 智幸 委員
	戸部 明男 委員	中島 進 委員	中村 一昭 委員
	中山 小夜子 委員	羽住 敏久 委員	原 則子 委員
	堀江 浩子 委員	森澤 美穂 委員	依田 保 委員
	中村 明慶 委員	馬場 優子 委員	
欠席者	副会長 植松 隼人 委員	齋藤 安江 委員	西方 雅良 委員
会議次第	1 委嘱状交付 2 委員紹介 3 会長・副会長の選任 4 諮問 5 アドバイザー紹介 6 パラスポーツアクションプランの策定の考え方について （1）足立区内の障がい者のスポーツに関するアンケート結果について （2）パラスポーツアクションプランのイメージについて 7 足立区パラスポーツ推進協議会の今後の運営について 8 パラスポーツ推進に係るご意見 9 その他		

<p>配付資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 1 足立区パラスポーツ推進協議会委員名簿 ・資料 2 足立区運動・スポーツ推進計画とパラスポーツアクションプランの位置づけ ・資料 3 足立区内の障がい者のスポーツに関するアンケート結果及びそこから見えてきた推進の方向性について ・資料 4 足立区パラスポーツアクションプランイメージ案 ・資料 5 全体スケジュール（案） ・資料 6 足立区パラスポーツ推進協議会条例 ・資料 7 足立区パラスポーツ推進協議会条例施行規則 ・資料 8 足立区内の障害者手帳所持者状況
<p>そ の 他</p>	<p>傍聴人 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 （3人）</p> <p>その他の参加者：<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無</p> <p>リタ・ファン・ドリエル（アドバイザー）</p> <p>長谷川勝美（副区長）</p> <p>橋本 忠幸（スポーツ推進課長）</p> <p>大野（スポーツ推進課パラスポーツ推進担当）</p>

(審議経過)

<事務局> 定刻でございますので、ただいまから第1回足立区パラスポーツ推進協議会を開催させていただきます。

本日はお忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

司会を務めさせていただきますスポーツ振興課パラスポーツ推進担当の大野でございます。よろしくお願いいたします。

現在、委員26名のうち22名の委員にご出席いただいておりますので、定足数である過半数を満たしており、本協議会は成立いたしております。

本協議会は条例で公開を原則としており、会議記録はホームページ等で公開させていただきます。会議記録を正確に作成するため、皆様のご発言を録音させていただいております。発言の際には、ご自分の所属団体、お名前をおっしゃっていただいてから発言をお願いいたします。

なお、本日は傍聴の方が3名来られています。

また、公開はいたしません、記録のため写真撮影をさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

1 委嘱状交付

<事務局> 初めに、委嘱状の交付を行います。

本来ですと、お一人ずつ委嘱状をお渡しすべきところですが、時間の都合もございますので、26名の委員の皆様を代表しまして、盆子原秀三様に委嘱状をお渡しいたします。

代表以外の委員の皆様には、委嘱状を席上に置かせていただいております。何とぞご理解のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、盆子原様、近藤区長、よろしくお願いいたします。

<近藤区長>

委嘱状 盆子原秀三様

足立区パラスポーツ推進協議会委員を委嘱します。

令和6年3月14日 足立区長近藤やよい
どうぞよろしくお願いいたします。

(委嘱状交付)

<事務局> ありがとうございます。盆子原様はお席にお戻りください。

それではここで、協議会開催に当たり、近藤区長から挨拶をさせていただきます。

<近藤区長> 本日はお忙しいところお集りいただきまして、誠にありがとうございます。

足立区では、東京オリンピックの一つのレガシーとして、障がいスポーツの定着、障がいを持った方々がスポーツに親しむ機会をつくっていかうということで対策を進めてまいりまして、今日正面にお座りでいらっしゃいますオランダから来日いただきましたリタさんでございますけれども、オランダは共生社会の先進国ということで、オリンピックを契機にして、オランダの障がいスポーツの在り方、障がい者がスポーツにどのように関わっているかということに様々なアドバイスを頂きまして、例えば足立区でもスポーツコンシェルジュというようなものを立ち上げたという経緯もございます。

ただ、この流れを一過性のものにするのではなく、さらに安定した施策を推進して、一人でも多くの障がいを持った方にスポーツに親しんでいただきたい。そして、障がいを持たない方々にも障がいスポーツに親しんでいただきたいという新しい流れを定着させていきたいというのが本推進協議会の目的でございます。

一時のトレンドに流れない。これからは高齢社会でもございますので、足腰も弱くなった高齢者の方々にも新しいスポーツの場を提供していくということも、この中に含まれるかと思っております。

それぞれのお立場で様々なご経験ですとか、ノウハウをお持ちの方々にご参画をいただいておりますので、ぜひ闊達なご意見、意見交換をお願いいたしまして、実の上がる協議会になればと大いに期待しているところでございますので、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

<事務局> ありがとうございます。

2 委員紹介

<事務局> 続きまして、本日ご参加いただいております委員の皆様を紹介いたします。

お一人ずつお名前をお呼びいたします。恐れ入りますが、その場でご起立をお願いいたします。

それでは、資料1の名簿の順番にお名前をお呼びいたします。

まず学識経験者の皆様のご紹介です。

了徳寺大学教授、盆子原秀三様。

東京未来大学教授、藤後悦子様。

公益財団法人日本パラスポーツ協会国際部次長、安岡由恵様。

続きまして、関係団体委員の皆様です。

総合型地域クラブ興本倶楽部クラブマネジャー、飯ヶ谷美恵様。

ADISC 代表、鶴沢勝様。

足立区ろう者協会会長、加藤仁志様。

足立区肢体不自由児者父母の会会長、蔵津あけみ様。

足立区精神障害者家族会連合会あしなみ会副会長、桑原芳枝様。

総合型地域クラブ KIT クラブ 21 会長、小金井寛様。

足立区手をつなぐ親の会会長、佐藤奈緒様。

東京都立足立特別支援学校校長、鈴木常義様。

社会福祉法人あいのわ福祉会神明障がい福祉施設総合施設長、照井智幸様。

足立区視力障害者福祉協会会長、戸部明男様。

社会福祉法人あだちの里西伊興ひまわり園施設長、中島進様。

東京ヴェルディ株式会社普及コーチ、中村一昭様。

公益財団法人足立区スポーツ協会副会長、中山小夜子様。

足立区スポーツ推進委員会会長、羽住敏久様。

足立区視力障害者福祉協会卓球クラブ(サウンドテーブルテニス) 部長、原則子様。

東京都立花畑学園校長、堀江浩子様。

続きまして、区職員です。

地域のちから推進部長、依田保です。

福祉部長、中村明慶です。

衛生部長、馬場優子です。

また、本日は第1回の協議会ということもありますので、足立区副区長、長谷川勝美も出席いたします。

なお、本日はご欠席されております4名の委員をご紹介します。

サインフットボールしながわスクール代表、植松隼人様。植松様はデフサッカーの元日本代表監督であり、昨年マレーシアで行われましたデフサッカーの世界選手権で準優勝するなどして活躍されました。

続きまして、NPO 法人つばさの会理事長、齋藤安江様。

総合型地域クラブ NACK クラブクラブマネジャー、西方雅良様。

足立区精神障がい者自立支援センターセンター長、森澤美穂様。

以上でございます。

3 会長・副会長の選任

<事務局>続きまして、本協議会の会長と副会長の選出についてです。

足立区パラスポーツ推進協議会条例に基づき委員の互選により定めることとなりますが、まず会長の選出についていかがいたしましょうか。

<小金井委員>KIT クラブ 21 の小金井と申します。

了徳寺大学教授の盆子原先生にお願いしたいと思うのですが、いかがでございましょうか。<事務局>ただいま学識委員の盆子原委員とのお声が上がりました。皆様いかがでしょうか。

会長としてご異存がないようでしたら、拍手で承認をお願いいたします。

(拍手)

<盆子原委員>よろしくをお願いいたします。

<事務局>ありがとうございました。

それでは、盆子原秀三委員に会長をお願いしたいと存じます。

盆子原会長、就任のご挨拶をお願いいたします。

<盆子原会長>改めまして、了徳寺大学の盆子原と申します。よろしくをお願いいたします。

この足立区の情勢を鑑みまして、このパラスポーツ推進を通して、共生社会の実現に向けて尽力をしていきたいと思っております。

また、私は理学療法士です。という意味から、リハビリテーションという概念の中で、障がい、また健康に対する啓蒙活動、そして養成学校の教員でもありますので、パラスポーツの推進における人材育成に力を入れていきたいと思っております。

非常に大役を仰せあずかりまして、身の引き締まる思いではございますけれども、ここにいらっしゃる委員の皆様方、また区長はじめまして区の職員の方々のご指導をしっかりと仰ぎ、行っていきたいと思っております。

どうぞご指導のほど、よろしくお願いいたします。

また、了徳寺大学は、4月になりまして SBC 東京医療大学に校名が変わります。パリのオリンピックの日本代表選手であります角田夏実さん、柔道でありますけれども、この大学に所属しております。よろしくお願いいたします。<事務局>ありがとうございました。

続きまして、副会長の選出についてはいかがいたしましょうか。

そうしましたら、学識経験者としてご出席いただく藤後委員と植松委員と安岡委員に副会長をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(拍手)

<事務局>ありがとうございます。

そうしましたら藤後委員、植松委員、安岡委員に副会長をお願いしたいと思います。

では、副会長の就任のご挨拶をいただければと思います。

まずは藤後副会長、お願いいたします。

<藤後副会長>副会長を仰せつかりました東京未来大学の藤後悦子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

簡単に自己紹介も含めてさせていただきたいと思います。私は臨床心理士、公認心理士としまして、大学に勤めております。研究分野としましては、主に子育て支援や親子関係などが主なのですが、スポーツの分野も15年ほど前からずっと研究をしてきております。

特に地域スポーツの研究からスタートしたのですが、それは私自身の子育ての中で親として地域スポーツに関わる中で、そのすばらしさを実感したのと同時に、少し疑問に感じることも多々ありました。そこから研究がスタートして、ハラスメント防止であったり、子どもたちと親子がどう付き合っていくか、そして部活動の研究など、いろいろ発展させていただいております。

最終的には、どのような状況になったとしても、どのようなライフスタイル、ライフスパンの中であったとしても、スポーツを通してウェルビーイングを高めたい、またスポーツを通してウェルビーイングが高い社会をつくっていききたいというようなことを常に思っております。

ですからこそ、今回のこのパラスポーツ推進協議会というものに関しては、私自身もとても関心がありますので、ぜひ皆様方と一緒に勉強させていただきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

(拍手)

<事務局>ありがとうございます。

続きまして、安岡副会長、お願いいたします。

<安岡副会長>ただいまご紹介にあずかりました、そして副会長を仰せつかりました安岡と申します。

私は、現在、日本パラスポーツ協会、日本パラリンピック委員会というところで国際部の次長を務めさせていただいております。

私自身のキャリアといたしましては、この世界に入ったときからずっと国際渉外のお仕事をさせていただいております、日本選手団の大会派遣ですとか、それから各種国際組織との調整とか、現在はアジアパラリンピック委員会の理事をさせていただいております、ずっと国際畑一本だったのですが、今回こちら

にお呼びいただきましたのは、国際パラリンピック委員会の公認教材でございますアィムポッシブルという教育プログラムがありまして、この中でパラスポーツを通じた共生社会理解ということをして学校で先生がご自分で授業をできるようにというシステムをつくらせていただいているんですね。

私の理解では、この協議会の趣旨というのは、障がいのある人たちが地域の中でスポーツが楽しめるようにしていこうということと、それから障がいのない子どもたちにパラスポーツのことを知ってもらおうというこの2本の柱があると思っているのですが、ここにプラスもう一つ、そういった活動を通じて、共生社会を実現していくための考え方とか認識の変化、行動の変化、自分たちの身の周りの社会をもっといい世界にしていこうための考え方を、子どもたち一人一人が、障がいのある・なしにかかわらず学習をしていく土壌を、この足立区の中でもっと広げていってほしい、そういう思いで関わらせていただければと思います。

国際の文脈の中では、隣にいらっしゃるリタさんが国際パラリンピック委員会の理事をされていらっしゃった頃からずっと仲よくさせていただいております、今回はこのリタさんのご縁で、足立区さんとうこういった関係を持たせていただくことができました。本当に国際パラリンピック委員会の考え方を国内、そして地域、すごく小さい単位から大きい単位まで、あまねくこの考え方、パラスポーツを通じた共生社会の実現を目指していくということを進めていくということが、具体化できているかなと考えております。

プライベートでは、夫がアテネの大会で金銀銅メダルを獲得したパラリンピアンでございます。もうおじいちゃんです。おじいちゃんとか、50を過ぎていますが、まだ競技は続けております。

そういった意味でもパラスポーツを非常に身近に感じておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(拍手)

<事務局>ありがとうございます。

本日、植松委員はご欠席ですので、植松委員からは次回ご挨拶をいただきたいと思います。

4 諮 問

<事務局>続きまして、近藤区長より本協議会に諮問をいたします。

盆子原会長、近藤区長、よろしくお願いいたします。

<近藤区長>

足立区パラスポーツ推進協議会会長様。

諮問書

足立区パラスポーツ推進協議会条例第3条の規定に基づき、下記の事項について諮問します。

1、パラスポーツアクションプランの策定について

期待しております。どうぞよろしくお願いいたします。

(諮問書手交)

<事務局>ありがとうございました。

近藤区長は、他の公務のため、申し訳ありませんが退席させていただきます。

<近藤区長>申し訳ありません。どうぞよろしくお願いいたします。

(区長退席)

5 アドバイザー紹介

<事務局>次第の5に参ります。

本日は、パラスポーツを通じて障がい者が心豊かに暮らす共生社会を実現することを目的として、足立区のパラスポーツ推進のアドバイザーをしていただいておりますオランダのパラスポーツ専門家の方にもご出席していただいておりますのでご紹介いたします。

リタ・ファン・ドリエル様です。

リタ様は、国際パラリンピック委員会元理事で、昨年にはパラリンピックオーダーの勲章を受賞されました。

現在は、足立区のパラスポーツ推進の原点ともいえるオランダ連携事業におきまして当初から区に深く関わっていただいております、本年1月には足立区と協定を結び、今後も区のパラスポーツ推進のパートナーとして携わっていただきます。

リタ様は、本協議会の委員ではございませんが、現在、足立区のパラスポーツ推進へのアドバイザーとして、障がい者施設やスポーツ団体と意見交換を行うため、来日いただいております。本日も、その一環としてご出席いただいております。

ここで、足立区パラスポーツ推進協議会の開催に際し、リタ・ファン・ドリエル様からお言葉を頂戴いたします。

リタ様、よろしくお願いいたします。

<リタ・ファン・ドリエル氏>こんにちは。皆さんにお会いできて大変うれしいです。お招きいただきましてありがとうございます。

びっくりいたしましたのは、今日お集りの皆様のたくさんの方を、私が既に存じ上げているということです。

私がここに出席できて大変うれしく思っています。歴史的瞬間に出会えたと思っています。

この先、数年間なのですけれども、私は足立区と一緒に頑張っていきますので、これからの発展を見ていけることを楽しみにしております。

2017年から足立区とはお仕事をさせていただいておりますので、たくさんの歴史的な瞬間を見させていただきました。

2017年に来てから、学校訪問や街の中も見たり、それからイベントに参加させていただいたり、たくさんの施設を訪れたのですけれども、その一つ一つが大変楽しいのですけれども、このアクションを見ていけるということを非常に楽しみにしています。

先ほど皆様に私の紹介をしていただいたと思うのですけれども、もっと重要なのは、私が日本で今皆さんにやっていることと、同じことをオランダでやっております。同じことをずっとやっているということなのですが、つまり30年ぐらいこの仕事に携わっているということになります。30年間も私は障がい者のためのスポーツを推進してまいりました。

オランダだけではなくて、別の国でもこのスポーツの推進というのをしていたのですけれども、先ほどの紹介にもありましたように、パラリンピックの元理事をやってまいりました。

今メインでやっておりますのは、私の住んでいるのはロッテルダムというオランダの国の街の一つなのですけれども、そちらでコンサルタント、そしてアドバイザーをやっております。

ロッテルダムという街は、私が生まれ育った街です。ですので、私はこの街のことをよく知っていますので、いつもこの街を基準として、そしてスポーツの推進という意味においては、ロッテルダムという街は素晴らしい街だと思っています。

ですので、足立区のアドバイザーをするときにもロッテルダムを例にとりて、これは本当にいい例だと私は信じておりますので、これからは私がアドバイスをしていくときには、ロッテルダムを例にとりてお話しをすることがあると思います。

そして皆さんに。今回この第1回のすばらしい会議を開けるということに祝福を申し上げ

たいと思います。すばらしいメンバーがそろっていると思っておりますし、そして皆様方がそれぞれに違った経験と、違った知見を持っている方だと思っています。必ず成功すると思っています。

私はアドバイザーをやっておりますけれども、スポーツもやっておりますので、また別の機会の皆様とスポーツをすることも楽しみにしております。

(拍手)

<事務局>ありがとうございました。

ここからは盆子原会長に進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

6 パラスポーツアクションプラン策定の考え方について

(1) 足立区内の障がい者のスポーツに関するアンケート結果について

(2) パラスポーツアクションプランのイメージについて

7 足立区パラスポーツ推進協議会の今後の運営について

<盆子原会長>リタさん、ありがとうございます。ロッテルダムに行ってみたいという気持ちになりました。

それでは、区長から承りましたパラスポーツアクションプランの策定の考え方について、次第6ではありますが、「パラスポーツアクションプラン策定の考え方について」、事務局からご説明いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

<橋本スポーツ振興課長>私、スポーツ振興課長の橋本でございます。

本日は、皆様お集りいただきましてありがとうございます。

今お話のございました足立区の今後の取組ですとか、このアクションプランについて、ご説明させていただきたいと思います。

まず資料2をお開きください。

資料2は、このアクションプランの上位の計画に当たります足立区運動・スポーツ推進計画の位置づけについてを表した図でございます。

まず上位にございます足立区運動・スポーツ推進計画につきましては、足立区の運動・スポーツ全般を推進していくための計画でございます。ちょうど今、運動・スポーツだけではなく、文化と図書と合わせて3分野連携をして見直しを進めております。間もなく完成し、皆様にお披露目できるということで、今月中にはお披露目できるのではないかと担当から伺っ

ていますけれども、こちらで運動・スポーツの計画の見直しも進めています。

実は見直す前の計画では、パラスポーツの書き込みというのはほとんどなかったのですけれども、見直しに当たりまして、この運動・スポーツの計画の中にも、パラスポーツの書き込みを加えているところでございます。

ただ、こちらの運動・スポーツ計画は全体を推進していくものですので、パラスポーツに特化して詳しく具体的に行動をまとめていくことができないので、そのあたりを細かく下のパラスポーツアクションプラン、行動計画にまとめていきたいと考えています。

こちらにつきまして皆様に策定にご協力をいただき、策定だけではなく、それをきちんと動かしていく実践、また進捗管理についてもご支援をいただきたいと思いますところでございます。

令和8年度までの計画として、こちらの運動・スポーツ計画のお尻に合わせておりますけれども、7年度、8年度の計画となる予定でございます。

続きまして、資料3-1をご覧ください。

ここからはアンケート等によって現状をお伝えしていきたいと思います。

まず1番が区内の身障手帳等の所持数でございます。

身体障害者手帳は2万を超えております。また愛の手帳も6,000を超え、精神障害者保健福祉手帳も約9,000ということで、こちらはそれぞれ23区で1位という状況で、非常に所持数が多い状況です。

人口でいうと、足立区は23区で5番目、多いのには間違いはないのですが、やはりそれぞれ1位というのは、特化して多いということが分かると思います。

続きまして、おめくりいただきまして資料3-2、こちらがアンケートの結果でございます。

週1回以上スポーツや運動をしている割合ということで、スポーツ実施率でございますけれども、足立区全体では35.2%。これは先ほど申し上げた文化・読書・スポーツに関するアンケート調査の結果から持ってきているものでございますけれども、アンケート自体は別のアンケートで単純比較はできないのですが、東京都さんのほうで週1回以上のスポーツ実施率アンケートを取ってしまして、そちらでは50%を超えている状況です。ですので、やはり東京都さんと比べても足立区は低いと。これは単純比較できないのですが、やはり低いことは低い。

さらにその下、足立区の障がい者を見ていただくと 23.6%ということで、健常者も含めた 35.2%から、さらに 11.6%低い。やはり障がい者の方は、なかなかスポーツにつながりにくいというところが見えてくるかと思います。

全国、東京都と比較させていただくと、その下にございますが、全国では 30.9%、東京都の障がい者では 35.2%ということで、やはり足立区の障がい者の方は、スポーツになかなかつながっていないという状況が分かりいただけるかなと思います。

続きまして、資料 3-3 をご覧ください。

では、なぜスポーツにつながらないのかというところのアンケートでございまして、特に四角の枠でくくっていないところはなかなか対策が難しいかなと思っているところなのですが、一番上はそもそもスポーツや運動が好きではないとか、その下は体を動かすことが得意ではない、また真ん中のところだと、病気や障がいのためとか、お医者さんから止められている、こういったところはなかなか区の施策でも難しいところかなと思うのですが、例えば経済的に余裕がないとか、どのようなスポーツや運動が合っているか分からないとか、指導している人がいないとか、この四角の枠でくくっているところに対しては、これまで区のほうでも例えば今年度始めている補助制度ですとか、スポーツコンシェルジュなど、対策は打ってきているのですが、まだなかなか足りていないのだというところが、この結果からも分かるところかと思えます。

こういったところを、皆様のお力も借りながら、アクションプランの中でも行動計画としてまとめていければいいなと考えているところでございます。

おめくりいただきまして、資料 3-4、こういった状況を踏まえまして、パラスポーツ推進の方向性について、5つの点でまとめさせていただいております。

例えば、運動・スポーツの楽しさに気づく「契機」となる機会を創出する。また 2 番目では継続する「場」を創出する、あとは支援制度を充実させていくとか、障がい者理解を促進する、また体制を構築する、こういった 5 点について方向性としてまとめていきたいと考えております。

また資料 3-5 では、これまでの区の主な取組をまとめさせていただいております。オランダ連携プロジェクト、先ほどもご紹介がありましたとおり、平成 29 年からスタートをさせていただいたものでございます。そのオランダ連

携プロジェクトをきっかけといたしまして、様々な取組を行ってまいりました。地域スポーツミーティングでは、本会と同様に様々な方に入っていただき、様々なご意見を頂いて、そこから生まれた施策もでございます。

また、その次にございますあだちスポーツコンシェルジュ、こちらについてはオランダ連携から、オランダの取組を参考に進めさせていただいた事業でございます。オランダのスポーツポイントという制度を、足立区なりに変えさせていただいて、スポーツコンシェルジュとして施策にしたものでございます。

またスペシャルライフコートについても、この連携から生まれた事業でございます。

その次の障がい者スポーツ活動助成金、これは今年度からスタートしたものでございまして、障がい者の方がスポーツをするに当たって、例えば運動シューズを買うですとか、トレーニングウェアを買うとか、また活動するに当たっての月会費を払ったりですとか、様々な理由で使えるように、1 人 1 万円ではございますけれども、年間 300 人分の予算を組んで始めたものでございます。こちらについても、先ほど申し上げた地域スポーツミーティングから生まれた事業でございまして、ご意見を頂いて、それを参考に今年度始めたものでございます。

また、その下の学校訪問型パラスポーツ体験教室につきましても、今年度から行っているものでございまして、今日も委員としてご出席いただいております東京ヴェルディの中村様にもご支援をいただいて、足立区の小学校全校に教室を開かせていただいたところでございます。こういった取組を行ってまいりました。

それを体系立てて整理させていただいたのが、その次のページでございまして、こちらについても後ほどご覧いただければと思います。

続きまして、資料 4 からなのですが、これはこれからつくっていくというパラスポーツのアクションプラン、なかなか皆様もイメージが湧かないということもあって、あくまでイメージ案として、事務局のほうで案をご提示させていただいたものでございます。

1 ページめくっていただきますと、パラスポーツアクションプランの目次がございまして。こういったアクションプランを考えていきたいというイメージ案として、ご提示させていただいております。特に協議会、協議事項とさせていただいているところは、この協議会を通じて議論をしてまとめていきたいと考えている部分でございます。

めくっていただきますと、テキストボックスになっている部分がかかなりございまして、そういったところを埋めていきたいというのが——あくまでイメージでございすけれども——現状の事務局の案でございす。

資料5、見開きになっているA3のものをお開きください。こちらがこの協議会の全体スケジュールでございす。今日が令和5年、2023年度の3月ということで、①の部分でございす。以降、定期的に②、③、直近ですと5月下旬を予定していますが、③が8月といった形で、大体年4回ぐらいを予定しております。皆様大変にお忙しいところ恐縮でございすますが、何とぞご出席のほど、可能な限りお願いしたいと考えております。最終的には、令和8年、2026年度の12月に完成したいと考えているところでございす。

任期は3年ということになっております。かなり長丁場になってまいりますが、この計画は、冒頭申し上げましたとおり、策定するだけではなくて、実行し、そして進捗管理も図っていくという目的でございすので、皆様の英知をぜひご支援いただければと考えております。何とぞよろしくお願いいたします。

私からの説明は以上となります。ありがとうございました。

<事務局>ただいま到着した委員がいらっしゃいますので、ご紹介させていただきます。

足立区精神障がい者自立支援センターセンター長、森澤美穂様です。

本日は23名の委員の皆様で開催させていただきます。

では、盆子原会長、お願いいたします。

8 パラスポーツ推進に係るご意見

<盆子原会長>次に、次第の8「パラスポーツ推進に係るご意見」というところです。

先ほども説明がございましたように、アクションプランの目指す将来の姿についてということですが、ここまでこのようにご説明いただいたところで、皆さんが感じたこと、またはふだん思っていること、今後長くこの協議会でパラスポーツの推進について議論していくことになります。

本日は第1回目ですので、まずは皆様に自己紹介していただきまして、併せて障がい者のスポーツ実施や、スポーツを通じた社会参画に関するご意見を頂ければと思っております。

時間の限りがありますので、できるだけ簡便にお願いしたいと思います。これだけ大勢の方

がいらっしゃると思いますので、大体お一人3分ぐらいかなとは思っておりますが、お願いできますでしょうか。

まずは、名簿順になりますけれども、飯ヶ谷委員からお願いしたいと思っております。よろしく願いいたします。

<飯ヶ谷委員>私、飯ヶ谷美恵と申します。ふだんは総合型地域スポーツクラブを立ち上げて、ほぼ20年になります。それと、会長もいらっしゃいますが、足立区のスポーツ推進委員も承っております。

パラスポーツに関しましては、足立区も、ちょっと前というか、随分前までは、障がい者の方を見ることが、人口が多い割にはあまりお目にかからなかったです。東京オリンピックあたりから、障がい者の人たちも表に出ていろいろなスポーツをということで、いろいろなスポーツの現場に少しずつ障がい者の方がお見えいただき始めて、ちょっと増えてきたかなという状態です。

なぜなのだろうと思ったら、やはり今まで障がい者にはできない、誘わないみたいな、そんなイメージがありましたけれども、最近は障がい者スポーツというのが、私たちの間でもかなり勉強してはやらせております。

実は今日も、ジャパン選手権が横浜のほうで行われています。そこに私たちの同僚がスタッフとしてお手伝いに行って、私も明日からあちらのほうに向かいたいと思います。

総合型といたしましては、地域の中で、障がいがあって、スポーツをやりたいという人を探すのをどうしようという状態、それから探したところで場所がない、それから障がい者にとって使いやすい施設はどこなのだろう、そこが今の課題かなと思います。

今回この会にお呼びいただいて、私自身も3年間勉強させていただいて、足立区も本当にいろいろな人が一緒になって、スポーツできるような環境をつくれる人になりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(拍手)

<盆子原会長>施設の時間の使用がございまして、1～2分程度になりますけれども、申し訳ございませんが、続いてよろしくお願いいたします。

<鶴沢委員>ADISC 代表の鶴沢と申します。ADISC は略して書いています。ADISC の略、足立DO IT、サッカークラブだったり、スポーツクラブだったり、ソーシャルクラブだったり、S がつけば何でもいいかなと思って、ADISC と名づけております。

私、現在、職は足立区内にある就労支援施設ウィズユーというところで施設長を務めております。5～6年ほど前に、うちに通う利用者が何かスポーツをやりたいということを言い出したのが、このADISCを立ち上げたきっかけです。私、幼少期から足立区でサッカーをずっと続けていることから、サッカーだったら教えられるよということで始めたのがきっかけです。

まずは、障がいを持っていても、取りあえずやってみよう、DO ITの精神を持って始めました。今現在、月に3、4回、クライフコートだったり、梅島小学校の校庭であったりで練習をしています。今現在、部員は23名おります。少しずつ増えてきています。スポーツコンシェルジュさんのお力も借りております。

今後の目標としましては、さらに会が大きくなることはもちろんですが、一人でも多くの障がいを持った方が、スポーツを通して笑顔になれることを目標に、これから歩んでいきたいと思っておりますので、お力添えよろしくお願いいたします。ありがとうございます。（拍手）

<蔵津委員>足立区肢体不自由児者父母の会の蔵津と申します。よろしくお願いいたします。

このパラスポーツというのは、よく耳にしていたのですが、私自身がよく分かっていないというか、だから私の子どものことを話させていただきます。

学校の頃にスポーツ大会というのがあって、駒沢競技場でやったのですが、そのときのビーナック投げと車椅子で50m、100mというのをやって、そのときに先生方が本当に一生懸命、放課後練習して、当日うちの子がメダルを取って、すごくうれしかった。これから感動を与えてあげたいなというのは今の親の気持ちなのですが、スポーツをさせに行く場所というのが、私自身が重いお尻を上げるというのができなくて、運動は大好きなのでやらせてあげたいなと思っているのですが、コートも本当に家のすぐ近くにあるのですね。だからちょっと行けばできるのだけれども、その一歩が踏み出せないというか、なかなかできないというので、この会で私も勉強を一生懸命して、子どもに運動をさせて、「お母さん、ありがとう」という言葉を聞きたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

（拍手）

<桑原委員>精神障害者家族会のあしなみ会というところから来ました。いつもは私も就労継続支援B型事業所で、作業のお手伝いとかをさせていただいています。

精神障がいをお持ちの方たちって、見た目には、どこに障がいがあるのかな、全然元気じゃないの、受け答えもちゃんとしているし大丈夫だよという印象があるのですが、でも実は、ちゃんとしているように見えていても頭の中で一生懸命、今言われていることは何なのかなと考えたり、ちょっと分からないけれども、分かっているような感じでスルーしてしまおうとか、そのストレスで本当に大事なことがちよっとしんどくなってしまうということがあります。

スポーツというところでも、大好きなのですが、この間もエル・ソフィアの体育館で、みんなで体を動かそうということで集まって、とても楽しくやってきました。

それと去年12月にありました野球盤がでっかくなつたみたいなのでやったという、私はちょっと行かなかったのですが、参加をした利用者さんが、すごく面白かったよと。夢中になって、行けばよかったよと言ってもらえるような、スポーツはみんな大好きだなと思っています。私も勉強をさせていただきながら頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

（拍手）

<小金井委員>10番の小金井と申します。

私は、足立区で総合型地域スポーツクラブ第1号のKITクラブ21というところに所属しておりました。

実は前身の城北養護学校さんのPTAの方たちと40年ほど交流がありました。ただし、障がいをお持ちになられている方たちとの接触というのは、それほど経験がなくてあれなのですが、総合型のほうでもそういったパラのスポーツを取り入れてやるのには、やはりいろいろな個人差があって、受け入れるときにいろいろな知識も必要かなと思ひまして、今回は手を挙げて、こちらの委員会のほうに名簿を載せていただく、このようになりました。

そういったことで未熟でございますが、ひとつパラスポーツを総合型で円滑に受けられるようにしたいと思ひまして参加させていただいております。よろしくお願いします。（拍手）

<佐藤委員>足立区手をつなぐ親の会の佐藤と申します。

手をつなぐ親の会は知的障がい者の親の会です。私自身は、息子は重度の知的障がいですが、今日お休みですが、つばさの会さんではずっと昔からトランポリンでお世話になっていたり、昨年から足立区でやっていただいているヴェルディさんの障がい者運動教室も参加させていただいて、障がい者運動教室は、

うちの子はちょろちょろ走り回ってしまうのですけれども、肢体不自由の方も参加されたりと、とてもよい取組だなと思っております。

知的で軽度の方などは、特別なパラスポーツの場所とかというのは、そんなに必要ないのかもしれないのですけれども、特別な場というのにも必要ですけれども、一般の方がスポーツをしている中にも、いろいろな障がいの人が入っていくというような取組も必要なのではないかなと思っております。

足立区さんは福祉部のほうでもお世話になっておりますけれども、こうしてスポーツのほうにも力を入れていただいて、とてもありがたいなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

<鈴木委員>足立特別支援学校校長の鈴木です。よろしくお願いいたします。

私、知的特別支援学校は8校目なのですが、約26年間、東京都選抜の知的男子バレーボールチームの指導に当たっておりまして、あっという間に26年間たってしまったのですが、東京都選抜の選手になると、スタートのメンバーでも185cmセンチ超えが4人ぐらいいて、レベル的には都立高校の関東大会に行っているチームと練習試合をするぐらい知的の選手たちも頑張っていると思います。

そして年間6試合ぐらい大きな大会もあって充実していく中、練習試合なんかも3月の2日、3日と、土・日ですけれども、自分たちで稼いだお金をためて兵庫のほうまで遠征に行き、愛知選抜と兵庫選抜と練習試合をしたりしています。かなり充実はしているなと感じているところです。

ただし、これを指導しているのが教員ですので、例えば今言った遠征費、宿泊費、そういったものに関しては全部自腹なのですね。そういったことで、指導者の確保をするのが難しいなと。自腹で積極的にこういった活動に取り組んでくれる若い世代の人材育成が求められているのではないかなと私は感じております。

逆に、こういった軽度の方のように目標を立てて運動に参加できない生徒さん、お子さんたちというのは数多くいらっしゃると思いますので、重度の方々のこれからの課題というのは、アダプテッドスポーツのように誰でも一緒に体を動かすことができる、楽しむことができるというところの場所等をしっかり確保してあげるといのが、大きな課題になってくるのではないかなと思います。私も一緒に勉強させて

いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。（拍手）

<照井委員>社会福祉法人あいのお福祉会神明障がい福祉施設で管理者をしております照井と申します。よろしくお願いいたします。

私の施設では、多機能型施設として生活支援を中心とした生活介護、それから作業訓練型の生活介護、B型、就労移行、就労定着、それから地域生活支援事業では、中途障がいをお持ちの方を対象としたデイサービスというように、幅広い障がい福祉サービスを中心に展開しております。

私の施設だけではないのですけれども、法人全体では利用者の高齢化・重度化が大きな課題となっていて、我々が思っている以上に進んでいると認識しているところです。

利用者には、できる限り住み慣れた地域で、できる限り長く活動、生活を続けてほしいと様々な取組をしているところですが、そんな中、スポーツというのは機能の維持・向上等だけでなく、他者との交流や様々な方とのコミュニケーションを通じて運動を楽しむということで、精神面での効果も得られるのではないかと考えています。

最近はその部分にも着目しまして、月一度、二度になるのですけれども、うちの利用者の一部のグループでは東京ヴェルディさん、今日は中村さんが見えていますけれども、運動教室にもちょっと参加させていただいて、楽しく体を動かすという活動も取り入れているところです。今後もこういった意味では拡大していければと思っているところです。どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

<戸部委員>初めまして。足立区視力障害者福祉協会の代表をしております戸部と申します。

私は、生まれつきの視力障がいでありましたが、弱視でいたのですけれども、成人後に失明しまして、ずっと今日まで生きております。およそ20年前に視覚障がい者の卓球というものに出会いまして、東京都の障害者スポーツセンターを中心に練習等々あるいは試合などに出るようになりました。国体の後にやっています全国障害者スポーツ大会というのが毎年各県の回り持ちでやっていますけれども、2012年と2018年の岐阜と福井に東京都代表で出たことがあります。

足立区でも視覚障がいの卓球、これはサウンドテーブルテニスとしまして、多分ご存じない方がほとんどだと思うのですけれども、日本では視覚障がい者の間で大変はやっているスポーツで、私自身もずっとやってきました。足

立区にもぜひこの設備が欲しいということで、専用の卓球台なものですから、保木間のスポーツセンターに区のほうにお願いして入れてもらって、これも十何年間ずっと続けております。

視覚障がい者の間では大変人気のあるゲームなのですが、やはり設備が必要ということで、あちこちにそうそうなくて、なかなか人口が増えない。それから公的にパラスポの競技とかいうものになかなか入れないというのは、どうしても世界中に広がっていかないのですね。そういう問題がちょっと残念なところなのですけれども、そこを通じてこの会議にも参加させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

<加藤委員>皆様よろしくお願いいたします。足立区ろう者協会会長、加藤と申します。

私は耳が聞こえません。声を出すということも難しいので、今パラスポーツということを出していただいて、とてもうれしく思っています。私が若い頃、東京都のろう学校はたくさんありますけれども、聞こえる人との競技というものはなくて、ろう者同士というものばかりでした。

生活を守るためということではなく、手話通訳を育てるということも大切です。皆様は声での世界で生きていますけれども、私はそれは無理なので手話で生きております。障がいにも知的障がい、視覚障がいといろいろありますが、ほかの方は皆様、音の世界で生きています。五体満足のようなのですが、耳、聞くことができません。今、パラリンピックというものがありますが、そこに聞こえない人は入っていません。運営のやり方が全く違います。デフリンピックというものがあります。冬季デフリンピックの大会がありまして、今日、その選手団が帰国します。足立区の選手が銀メダルを2個取りました。とても名誉なこと、すばらしいことだと思っております。

パラリンピックと関わるかどうか分かりませんが、この協議に参加させていただくということをととてもうれしく思っています。

今、ろう者協会の中でも、ゲートボールのようなスポーツはありますが、若い人たちは野球をしています。大会にも参加しています。例えばバレーボールでもやりたいと思っても、相手がいないという悩みもあります。

今回参加させていただいて、3年間皆様とお話しをして内容を煮詰めて、いろいろと聞こえる方ともコミュニケーションを取れる方法、その場をつくりたいと思います。よろしくお願いいたします。（拍手）

<中島委員>社会福祉法人あだちの里西伊興ひまわり園で施設長をしております中島と申します。よろしくお願いいたします。

法人は、区内に17か所の事業所で主に知的障がいの方が700名前後利用されている法人でございます。

知的に障がいを持っている方であっても、体を動かすことが、とても大好きな方が多くいらっしゃいます。法人の中でも、最近やっと活動が増えてきたのがボッチャ活動です。いろいろな方、年齢にかかわらず参加できるということで、法人の中でも5事業所が集まって2か月に一度大会をしたりとか、そういった形で少しずつ広がってきています。

2月に行われました足立区のボッチャ大会にも、西伊興の利用者が、2名だけでしたけれども参加させていただいて、とても喜んで帰ってきました。

ただ、やはり法人の中だけですと限られた人たちのみですので、今後法人としては、ほかの団体さんですとか、障がい云々にかかわらず関われる取組として進めていきたいと思っております。

昨日、リタさんも私どもの西伊興ひまわり園の見学をしていただきました。たくさんの方の利用者さんが、リタさんにいろいろ説明したくて、なかなか自分の気持ちを伝えられない人もいるのですけれども、どんどんもっともっと前に利用者さんが出られるような環境を私たちは少しずつつくっていききたいと思っております。

ぜひこの会でしっかりと私自身も学ばせていただきながら、これを法人の中でしっかりと落としていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。（拍手）

<中村委員>皆さん、こんにちは。私、東京ヴェルディというサッカーチームの中村と申します。あだ名はイケメンと申します。よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

簡単に自己紹介をさせていただきます。

私はJリーグのクラブ、東京ヴェルディというチームに所属はしているのですが、サッカーの指導はほとんどしておりません。ほぼ障がいのある方々のスポーツ教室に関わっています。

なぜ障がいのある方々のスポーツ教室に関わっているかというと、二十数年前、花畑学園の堀江先生と、市原市にあるしいの木特別支援学校でお会いして、そこでやはり障がいのある方々のスポーツは大切だなということを知って、そこからのスタートです。なので、20年近く活動させていただいております。

今、我々東京ヴェルディの活動で簡単に説明しますと、3つ活動を行っております。

1つ目が、障がいのある方々のスポーツ教室ですね。お母さんもいつも参加していただいております。ひまわり園さんも、神明さんだったりとか、いろいろなところと一緒に活動させていただいております。それが1つ目です。

2つ目が、先ほどお話がありました全小学校67校に行き、パラスポーツの体験教室という名前なのですが、簡単に言うと疑似体験を行っています。実際に障がいのある方々の気持ちになっていただくメニューを通して、障がいについての理解を深めていただくという授業を行っております。

3つ目が、インクルーシブスポーツ教室を行っております。これは土・日を通して、障がいのある方、ない方に関わらず、みんなでスポーツを楽しもうということを行っております。

この3つを通して、最終的には我々東京ヴェルディの目標としては、東京中もっと言ったら日本中、どこに住んでいても、障がいがあってもなくても、スポーツを気軽にできる環境をつくっていかうと思っておりますので、皆さんとともにそういった活動ができればいいなと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

あだ名はイケメンです。よろしくお願いいたします。（拍手）

<中山委員> 足立区スポーツ協会の中山と申します。

私はスポーツ協会で執行役員とかいろいろさせていただいておりますけれども、私個人としては、水泳連盟のほうで、プールを通して障がいのある方たちとずっと関わりを持ってきました。今から大体30年ぐらい前に、足立区に東京マリンというレジャープールがありました。そこにちょっとお手伝いさせていただいたとき、初めて障がいを持っている方たちを見たときに、私は涙をぼろぼろこぼして、私は何ができるのだろうということで、本当に何もできない自分に愕然としたところが、私が障がいを持った人たちと関わり始めるの一步になりました。

趣味の水泳をずっと通してきまして続けております。今も足立区の中には温水プールが3つありますので、そちらのほうのプールに障がいを持った方、もちろん普通の健常者も指導させていただいておりますけれども、ずっと指導させていただいております。

実は、今日、本当はスイムスポーツセンターで障がい者の子どもたちを教える予定になっておりますけれども、この子たちは30年ほど前からずっと続けておりまして、最初は水遊びから始まりましたけれども、記録会に出る目標を持って、記録会に出られるようになって、その記録会に向けて週に1回の練習をやっております。ここをちょっと今日は抜け出して、こちらに來させていただいたのですけれども、たくさんの方の障がいのお話を聞いて、私はもっともっと勉強しなければいけないのかなというのを、ちょっと心で感じました。

スポーツ協会からのお知らせということですが、前は体育協会と申しておりました。それがスポーツ協会と名前を変更いたしました。それを機にいたしまして、スポーツ協会の加盟団体37団体に向けて、パラスポーツを広域に広めていこうではないかということで、今年の重点目標として、パラスポーツの指導者が大切ということで、指導者向けの講演会というのをこれから企画してやっていきたいと思いますので、ここで私は一生懸命勉強して、スポーツ協会に持って帰りたいと思いますので、皆さんどうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

<羽住委員> 20番になります。足立区スポーツ推進委員会、羽住と申します。

足立区のスポーツ推進委員というのは、現在82名の委員が各地域から委嘱されております。パラスポーツの取組に関しましては、古くは日曜教室というのがございまして——今もやっておりますか、そこに従事しに行った記憶がございます。

ただ、このときには右も左も分からず障がいの方と触れ合うということで、その当時の委員、小金井さんとか中山さんとかおりますけれども、みんなビクビクしながら携わっていたような記憶がございます。

実際にパラスポの取組としては、東京オリンピック・パラリンピック、こちらの開催決定を受けて始まったかなというような状況で、ただ、それ以前から東京都や足立区で実施されているパラスポーツ指導員の講習会、こちらのほうは積極的にみんな受けましょうということで、現在40名弱の委員が指導員の資格を取っております。

開催決定後、パラスポーツの普及というのが委員会のメインテーマとなってきました。先ほどヴェルディさんでもありましたけれども、スポーツ推進委員会でも学校での体験授業ということで、年間5～6校になりますけれども、希望のある学校に出向いて、ボッチャや

ゴールボール体験を児童や生徒にしたいという思いを持っています。

そのほか地域イベントとしまして、町会や住区センター、地区体、包括センター等からの依頼に基づいて、大体ボッチャのイベントが多いかと思っています。

そのほかには、オランダ連携をきっかけに出来上がりましたスペシャルライフコート、こちらのほうで年 12 回程度、パラスポーツ体験会というものに従事しております。こちらではボッチャや車椅子体験、またさらにはオランダ発祥のコーフボール、ほかにはレクリエーションスポーツですね。この辺を区民の皆さんに体験いただいているというような状況でございます。

そのほか、都区との共催になりますけれども、2 月のパラスポーツフェスティバル、体験会ですか、こちらのほうとか、あとはレクボッチャ大会、あとは 10 月にスポ協さんと共催のスポーツカーニバルでも、パラスポーツのイベントといいますか、ブースを設けて区民の皆さんに体験していただく機会を設けております。

最後ですが、スポーツ推進委員会でも東京都の障害者スポーツセンターのほうに視察に行きまして、日夜勉強している状況でございます。以上です。（拍手）

<原委員> こんにち。私は多分、皆さんの中では一応一アスリートの代表、足立区内でサウンドテーブルテニスサークルがありまして、その責任者をしています原則子と申します。

私が視覚障がい者になりまして、パラスポーツというと種目がいろいろありますけれども、視覚障がい者にとってのパラスポーツというのが、意外と身近にできるものがなかったのです。ですけれども、このサウンドテーブルテニスは、目が見えなくても、見える人でも、このアイマスクをすることによって、みんな目が見えなくなって、そして枠がある卓球台で、木のラケットで、ピンポン玉の中に鉛の粒が入っていますが、このボールをポーンと台の上で転がすだけで、空中で打つのではないのです。ネットは、このボールよりも 2 ミリぐらい空いている隙間があるのです。そこを相手の人とのラケットで、ポーン、ポーンと軽く行ったり来たり、打つだけのゲームなのです。

ちょっとルールがありまして、審判さんが審判講習会で資格を取得していただいて、一般卓球と同じように 11 点の 3 セットマッチということでゲームができるのです。人間は勝ち負けのゲームができると燃えますよね。私も 10 年前にこのスポーツに出会って、障がい者

になって家に引きこもっていたのですが、このスポーツと出会ったことによって、いろいろな視覚障がい者並びにほかの障がい者の方と交流を持つことができました。

これからこの委員会でもお願いしたいと思いますが、この足立区内でこのスポーツができる場所は、台があるのが足立区総合スポーツセンターといいまして、東保木間の総合スポーツセンターの会議室に 2 台あるだけなのです。

私たち視覚障がい者は移動するのが結構困難なのです。一人歩きも頑張って白杖で歩いている方もいますが、私なんかちょっと身の危険を感じまして、今日もお隣にガイドヘルパーさんという方をお願いしまして、その方と会場まで行かないといけませんので、できるだけ近いところで、こういう手軽に楽しめるスポーツで、私たち視覚障がい者だけでなく、普通の障がい者の方でも、目が見える方でも、このアイマスクをしていただければ同じ立場になるので、住区センターが足立区内の近所にありますよね。私の近くでも東和住区センターという体育館もあるので、そこにこの台が 1 台あったら、もう少し身近に手軽に行けて、楽しめるのになと常々思っているのです。

これからこの会議の中において、障がい者が身近にいつでもできる会場づくり、運営づくりをしていきたいなと思ひまして、今日はこちらに参加させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

<堀江委員> こんにち。花畑学園の校長の堀江と申します。よろしくお願いいたします。

本校は知的障がい部門の小学部・中学部、小学生・中学生ですね、あと肢体不自由の小学生・中学生・高校生がいます。大きな学校です。

ここからは足立区だからこそできたのだという話をさせていただきます。

去年のことです。小学生ボッチャ大会というものがありまして、それはお隣の花畑第一小学校と特別支援学級もしくは特別支援学校の生徒と一緒に参加するボッチャ大会でした。

そのときに、うちの子どもがその練習をどうしても頑張りたいということで、クライフコートがあるからすぐ行けたのです。クライフコートで母親と練習しようと思ったら、たまたまその試合に出る花畑第一小が、だったら一緒にやろうよと。保護者はずっと見てたただんでいるだけで、ずっと練習をしたそうです。その生徒は軽度ではありません。いろいろな意思を試行錯誤している姿、そういうところが場所が

あったからこそできた。それも何回も使えるという簡便さでできたと思っています。

もう一つは、ヴェルディさんとも関係あるのですけれども、交流教育というところでヴェルディさんに来ていただいて、花畑第一小学校と本校の生徒が、教員ではなくて、外部の人と一緒に交流をしている状況があります。その素地があったからこそ、気軽に子どもたちも声をかけたと思います。

学校教育の中で、そういうふうにいる外方の方、地域の場所を使いながら、日頃スポーツと一緒に慣れ親しむという環境は必要かなと思っています。それは足立区だからこでできているかなと思うので感謝を申し上げます。

2点目なのですが、軽度のほうは鈴木校長先生がおっしゃられていたのですが、うちは重度の子どもたちがいます。人工呼吸器の子がいます。その子のスポーツって何か。体を動かさせて無理ですよ。

ということは、体を動かすというよりも、例えば今だとアバターというのがありますよね。自分の分身をつくって、別の世界で体を動かす。あとeスポーツもあります。そういうものもスポーツの中に入るといことで、パラスポーツというよりももう少し上の次元の中で、障がいのある方々がそこで自己実現ができる、そういうスポーツの在り方も考えてもいいのではないのでしょうか。

場所とか、いろいろ人材の交流があるので、新しくつくり出すというよりも、それをどう結びつけるかというところで工夫をしていくというのも一つ必要かなと思います。以上でございます。（拍手）

<森澤委員>竹の塚にあります足立区精神障がい者自立支援センターのセンター長をしております森澤です。よろしくお願いいたします。

私たちのセンターのほうは、名前のとおり、精神障がいの方を主として受け入れをしております。こちらのセンターのほうですが、指定管理で社会福祉法人あしなみが運営をしております。センターの中には、地域活動支援センターⅠ型と就労継続支援事業のB型と就労移行支援事業があります。多機能の施設となっております。

どのようなスポーツと縁があるかといいますと、実はコロナ禍がありまして、コロナ禍前は地域活動支援センターのほうではバレーボール大会を行っておりました。こちらがソフトバレーといいまして、ボールが少し大きくて柔らかい。柔らかいので力を入れてしまうと結構曲がったりして、なかなか難しいものではある

のですが、東京都でも作業所のB型事業等の大会があったりしましたし、こちらでも区の病院ですとか、デイケアですとか、作業所の皆さんに声かけをして大会を行っていました。

ただ、コロナを挟んで、そこで少し運動習慣が途切れてしまったというところで、なかなかバレーボール大会を再開することが難しく、スポーツコンシェルジュの方が以前施設に挨拶に来てくださったのを思い出して、パラスポーツを区内で精神の事業所等で声かけをしてやらないかなということで2年前から関わりを持たせていただいています。そういった関わりの中で、こちらの地域交流も含めたお祭りでもパラスポーツを行わせていただいたり、みんなで取り組むことができております。

またB型の移行支援事業所ですと、スポーツというものを事業の中で進めていくことが少なく、どうしても作業中心になってしまう部分ではあるのですが、法人の中のスポーツですとか、そういったものに参加しております。また、足立区のフレンドリーのやる大会にも出たりします。

今日、リタさんが午前中にこちらの施設を見学していただいて、メンバーさんといろいろとお話しをしていただきました。声をかけていただいたときに、リタさんがメンバーさんに「何かもう少しアクティブな活動をしたくない?」「活動的なことを何かやりたくない?」、または「以前やっていたスポーツは何ですか」「これから先やりたいスポーツ何かある?」ということ聞いてくださったんですね。

私たちは、支援の部分で皆さんの作業ですとか、地域での暮らしの中に、目線としてそういったスポーツ、体を動かすという活動の部分が抜けていたのではないかなというのを改めて感じまして、今後、皆さんとそういったお話しをしながら、施設でも積極的にコンシェルジュの方とそれぞれのメンバーさんをつなげていく役割を職員ができるようにしっかりと情報を得て、また団体として、そういった活動にも参加していけるような取組も含めてしていかなければいけないなと思っております。

3年間の任期の中で、しっかりと情報を得ながら施設に下ろして、器はあっても、そこをつなぐ役割が施設の職員にはとても必要かなと思いますので、そこをつないでいながら、より充実した障がい者スポーツが、また健常者の皆さんとも一緒にやっていけるといいのかなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

<藤後副会長>もう一度回ってくるとは思っていなかったの、でちょっと油断していました。すみません。藤後と申します。

皆さん本当にいろいろなお立場でコメントを頂いて、とても勉強になりました。一言で障がいと言っても、本当にいろいろな種類の障がいがあるということも、しっかり学ばせていただきました。

今の時点で私は何ができるかなと考えながらお話を聞かせていただいたのですが、まず1つ目は、東京未来大学というのは足立区にございますので、いかに学生たちがこのスポーツに関わるような機会を確保するかということを、何ができるかなと思いながら考えさせていただいた次第です。

実際、今年度も東京ヴェルディさんと連携させていただいており、またクライフコートフェスティバルに2年生の学生を派遣する予定でもありますので、そこでも新しい刺激ができればいいなと思っています。

もう一つの点としまして、資料4-4を見ていただければと思うのですが、「アクションプランの位置づけと計画期間」というものがございまして、この推進協議会は足立区パラスポーツアクションプランと関係するのですが、その1つ上に書かれている足立区運動・スポーツ推進計画、こちらにも会議がございまして、その取りまとめをさせていただいているのです。そこには原さんも委員として一緒にいつも勉強させていただいているのですが、ある意味こちらで話し合われたことが、足立区全体の運動・スポーツ推進計画のほうにも反映されてきます。

また面白いことに、3分野連携をされていますので、スポーツから発信されたものが横の文化芸術と読書のほうにも広がっていきます。いろいろな波及効果があると思っておりますので、ここで学ばせていただいたことは、しっかりとほかのところにも伝えていきたいと思った次第でございます。以上です。

<安岡副会長>ありがとうございます。

本当に今おっしゃられたように、様々な立場で、様々な形でスポーツに携わってくださっている方がこんなにたくさんいらっしゃるということを大変心強く思いました。

聞かせていただいた中で、ちょっと印象として感じたことを申し上げさせていただきます。

私は、スポーツそのものをするをお勧めするためにここにいるのではなくて、考え方を整理するためにいると思っておりますので、ち

よっとその辺はご容赦していただければと思います。

1つは、体験会の機会が最近すごく多くなってきました。障がいの疑似体験をしていただくことが、子どもたち、大人の方も多いと思うのですが、その結果出てきた言葉が、例えば「障がいのある人は大変なのだな。親切にしてあげなければいけないと思いました」ということを結論として導き出すのだったら、これは失敗かなと。こういう考え方をなくしていくために、今、私たちは活動していると思っています。ここにいらっしゃる皆様がということではないのですが、その経験を通して、恐らく障がいのある人たちの不便さ、自分と違うところというのに気づいていただけたから、そういう言葉につながったと思うのですね。

だけれども、かわいそうだから優しくしてあげようということではなくて、どうやったらそれが一緒に楽しめるようにできるのか、もっとできるようにするためにはどうすればいいのか、こういうふうにしたら面白くなったよみたいな、そういう形で、子どもたちというか、参加してくださった方の考え方を変えていければ、すごく大きな成果が得られてくるのではないかなと感じました。具体的にどうするかという話は、またおいおいさせていただければと思います。

そして、スポーツの視点が欠けていたのかも、と最後におっしゃられていましたけれども、本当に今までいろいろな場面で、頭から「スポーツできないよね」と思われてきた人たちがたくさんいらっしゃると思うのです。東京パラリンピックをきっかけにして、私たちがパラスポーツを通じていろいろなことを変えていこうと思っている中に、最初からできないと思わない、どうやったらできるようになるか考えてみようということがあります。

先ほどちょっと申し上げたのですが、教材の名前が「アイトポッシブル」というのですが、すけれども、「インポッシブル」にコンマが1個つく「アイトポッシブル」になる。できないとできるの違いは、その小さいコンマ1個のことなのだよ、だからそのコンマは何か考えましょう。そして私がそのコンマになりましょうということを子どもたちに考えてほしいというのが教材なのですが、そのコンマのところをまたこの中で一緒に考えてさせていただきつつ、どうやったらいろいろな方がスポーツを楽しめるようになるのか。ここでももちろん考えますけれども、ここを出た後、まちの中の人たちとか、子どもたちとかと一緒に考え

てくれるような足立区にしていくためにはどうすればいいかなというのと一緒に考えさせていただければと思いました。ありがとうございます。

<盆子原会長>どうもありがとうございます。

いろいろな方々から初めて私自身が聞いたといいますが、そういった意見が非常に多くあって、非常に熱い思いが伝わってまいりました。本当に感謝いたします。

私自身は、言葉だけで共生社会とかという言葉を実現すると思っておりましたけれども、やはり互いに思いやる気持ちを育むような、そういう社会構造にしていかなければいけない。いわゆるこのパラスポーツを通じてというところだと思います。

私自身は理学療法士ですので、リハビリテーションという最初の時点から社会復帰というところ、それに対してスポーツにというところ、そういった中で、なかなかスポーツにいけない方もいっぱいいらっしゃると思います。

そういった中で、何とかクリエイティブといいますが、創造性といいますが、この人はこういうことができるのではないかなとか、またはその工夫をしていけるような、そういったところの部署をしっかりと整えていったらいいのではないかなと思っております。本当に熱い意見を頂きましてありがとうございました。

本日、アドバイザーでありますリタさんにもお越しいただいておりますので、ご意見を頂きたいと思います。

<リタ・ファン・ドリエル氏>皆さんのご意見を頂きまして、本当にありがとうございます。

私たちが同じ船に乗っているということが分かりまして、理解が共通であるということをつかかって大変うれしく思っています。

私たちは、様々な障がいを持った方、そしてレベルの違う障がいを持った方々、みんなが楽しめるということを考えていく必要があると思っています。

私が過去から、そして今でも思っていることなのですから、最も重要なことは、人は何かができる、必ず参加ができると思っています。

私の前職というのは、国際パラリンピックの理事だったのですが、その中でエリートスポーツということは、私のプライオリティというか、重要なことではないのです。エリートになる、すごくできるスポーツ選手になるということよりも、どのような障がいを持っていたとしてもスポーツをする、そしてスポーツを楽しむということが最も重要なことだと思います。

私たちが今からする作業というのは、そういう方々に、機会をつくって、参加していただくということをもっと増やしていくということです。そして楽しんでいただくということをやっていききたいと思います。

障がいを持っている方が参加するに当たっては、やはり何かのサポートが必要なことというのがあると思います。頼らなくてはいけない部分というのがあると思います。

障がいを持っている方というのは、考えたこともなかったということがあると思いますので、聞かれるまで、スポーツをしようと思ったことがなかったという場合があります。ですので、私たちがファシリテーターになって質問をして、「もっと体を動かしたくはないですか」「スポーツをやってみたくはないですか」と聞いてみるということも重要なことになってきます。

ですので、関わる人たちみんな、先生方、それから施設で働いていらっしゃる方、理学療法士の方、様々な方が施設に関わっていらっしゃるかと思いますが、そのような方々が、近くにいらっしゃる障がいを持っている方に、そのような質問していただくということは重要なことだと思います。

それから、もちろん親御さんたちも非常に重要な役割を担っていると思います。先ほど親御さんのお一方が、ご自身の体験を教えていただいたのですが、非常に感動しました。やはりすごく大変で、これを本当にさせていいのかなと思うこともあると思うのですが、考えてみるということも重要です。勇気を出して送り出すということも重要なことだと思います。

ここにいる私たち全員が、その責任を担っていると思っています。なぜならば、私たちというのは、みんな障がい者に関わっているからです。

そしてもちろん私たちというのは、知識はあるとは思いますが、知識があるから止めてしまうのではなくて、障がい者のほうに向かって、そして彼らを送り出していくように助けをしていかなければいけないと思います。

今日お伺いしました施設のほうで施設利用者さんとお話しをしまして、最後にお話しができた男性の方がいたのですが、その方とお話しをしたのは非常に印象深く覚えていて、私が聞いた質問に対して、はっきりと何がしたいかということをお答えくださいました。多分その方はクラブに入ってくれるかもしれないのですが、何を聞いたかというのと、

「スポーツは好きですか」と言ったら、「はい。スポーツをやって体重を落としたいです」と言いました。「どんなスポーツをしたいですか」と言ったら、「チームスポーツがやりたいです」と言いました。そして最後には「サッカーがやりたいです」としっかりと意見を言うていただきました。

皆さんの施設ですとか、学校ですとか、そういったところでそのようなことがありましたら、足立区のコンシェルジュがファシリテーターとなってくださると思いますので、安心して聞いていただきたいと思います。

もちろん私たちの役割としては、その機会をもっとつくっていくということは重要なのですけれども、機会をつくった上で、誰しもがみんな一緒に楽しむことができるということを考えつつ、そのような機会をつくっていくということが、これから重要になってくると思います。

そういった意味でいいですよ、ボッチャって本当に完璧なスポーツだと思ってまして、ボッチャって普通の方もできますし、どういう障がいの方でも、とても楽しんでいただけるスポーツだと感じました。

私はオランダのロッテルダムなのですから、ロッテルダムにすごくいい例があるのでお話ししたいと思います。

障がいのある方がスポーツをするときに最初にバリアになるのが、どうやって自分がその場所に行くのだということです。もちろんどこに行くときに、タクシーという手はあると思うのですけれども、そういう方々が行くためのバスを市で用意するとか、そういったことであると思うのですけれども、それだともっと高くなってしまいますし、障がい者の方に公共交通機関を使って行くということを学んでいただきたいというものがあります。

ロッテルダムでは何をやっているかと申しますと、バディシステムというのがありまして、学生の子たちが公共交通に乗って、その施設まで一緒に行ってくれるということをやっています。

もともとこのバディシステムというのは、障がいのある方が施設への行き方を覚えてもらうためだったのですね。学生の方が家まで迎えに来て、一緒に乗り方を教えてあげて、その施設まで行くということだったのですけれども、それに加えて、一緒にそのスポーツを楽しんでもらうということもやっています。ですので、家に行って、施設に行って、一緒に楽しん

で、また一緒に帰ってくるということをやっています。

このバディシステムに関わる学生の子たちというのは、インターンシップでやっているのですけれども、この学生からのフィードバックというのもすごくよくて、すごく楽しかった、そして障がいのある方がよく分かるようになってきたということで、もっとたくさんの方が今ではバディシステムをジョインしてくれています。

ですので、皆さんのお話を聞いていると、このバディシステムはうまくいくのではないかなと私も思ったりしますので、ぜひこの例というのも頭の中に入れていただけるとうれしいです。

<盆子原会長>貴重な意見を頂きましてありがとうございます。

我々はこのところで、障がいに接しているのだと。会話の中でというところの重要性、それから先ほどのバディシステムという、私自身が教育の立場ですので、非常に実践をしたいなと思います。本当にありがとうございます。

9 その他

<橋本スポーツ振興課長>それでは、事務局のほうにバトンタッチさせていただきます。

皆様、本当にありがとうございます。

次回に向けて、簡単にご説明をさせていただきます。

次回、まだ日にちは決まっておりますが、5月下旬を予定しております、どんなことを話したいかというのは、資料4を改めてお開きいただきたいのですが、資料4-2に先ほどご説明した目次がございます。

こちらの4の「協議会 協議事項」となっている「アクションプランの目指す将来の姿」を次回皆様に協議をしていただきたいと思います。

今日は非常に限られた時間の中で1人2分程度と、お話が十分にできなかったかなと思っております。大変に申し訳ございませんでした。

今回は「アクションプランが目指す将来の姿」について、皆様に議論していただき固めていきたいと考えております。

そのために、改めて資料4-2でこのアクションプランの全体像をご覧いただいた上で、資料4-3は関係法令を載せておりますので、例えばスポーツ基本法ですとか、障害者基本法をご覧いただき、その上で先ほど藤後先生からご説明があった資料4-4、こちらにはアクシ

ョンプランの位置づけについて記載をさせていただいております。このアクションプラン、一番下の部分でございますけれども、先ほどこちらでもご説明いたしましたが、足立区の運動・スポーツ推進計画の下位に位置するものでございますので、そちらにもつながってまいります。先ほど藤後先生からもお話がありましたように、読書の推進計画ですとか、文化芸術の推進計画にも結びつくものでございます。

こういった位置づけについても踏まえさせていただいて、計画の期間については資料4に記載をさせていただいておりますけれども、スケジュールは令和8年度末という形——ほかの計画のお尻と合わせていますけれども——というスケジュールになっております。

そのあたりを踏まえて、資料4－6の4の「アクションプランの目指す将来の姿」について、皆様のご意見を協議させていただきたいと考えております。

今日の皆様から頂いたご意見、また学識の皆様、リタさんから頂いたご意見などは、会議録としてまとめさせていただきます。会議録の案ができた段階で皆様に送らせていただいて、内容について記載の誤りですとかございましたら修正を事務局に送っていただいた上で、完成版を改めて皆様に送らせていただきます。

そういった今日の皆様のご意見なども参考にしていただいて、次回、この「アクションプランの目指す将来の姿」の議論をするためにご意見をご用意いただき、5月の下旬の会議を迎えていただきたいと考えております。

非常に限られた時間の中で恐縮でございますけれども、今日なかなか意見交換ができなかったという方、ぜひ次回は意見交換をお願いしたいと思います。次回は「アクションプランの目指す将来の姿」についての議論のほどをよろしくお願いいたします。日程等につきましては、また改めてのご連絡となります。

事務連絡でございますけれども、本日、車でお越しの方、駐車券を事務局からお渡しをいたしますので、会議終了後、出口付近にいる職員にお声かけをください。駐車券をお渡しいたします。

それでは、これをもちまして、第1回足立区パラスポーツ推進協議会を終了いたします。本日はお忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

お忘れ物などないように、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。